

静岡県博物館協会会報

No. 73

静岡の博物館



開館20周年を迎えた静岡県立美術館ロダン館

静岡県博物館協会

平成26年度静岡県博物館協会 役員会・総会

日 時：平成26年 5月20日（火）

場 所：静岡県立美術館 講座室

役員会 13：30～14：30

総会に先立ち役員会が開催され、平成25年度の事業報告、決算、平成26年度の事業計画、予算案、及び新規加盟館の入会等について審議されました。

静岡県博物館協会 役員名簿（敬称略）

会 長：芳賀 徹（静岡県立美術館長）

副会長：秋山信彦（東海大学海洋科学博物館長）、中村邦明（浜松市美術館長）

理 事：中野浩一郎（下田海中水族館総支配人）、木村 智（熱川バナナワニ園長）、

内田篤呉（MOA美術館長）、宮澤正敏（三島市郷土資料館長）、

峰田 武（佐野美術館理事長）、漆畑 潔（フェルケール博物館長）、

落合偉洲（久能山東照宮博物館長）、伊藤寿夫（静岡市立登呂博物館長）、

堀切正人（常葉美術館長）、鈴木敏則（浜松市博物館長）

監 事：佐野勝美（駿府博物館長）、田中豊稲（静岡市美術館長）

総 会 15：00～16：30

1. 開会

出席31、委任状34、計65で、協会加盟75の過半数に達したため、協会規約第15条の規定により総会は成立しました。

2. 会長あいさつ

静岡県立美術館長 芳賀 徹

3. 議事

（1）役員改選について

事務局からの説明により提案どおり承認・可決されました。

（2）平成25年度事業実績及び決算報告、監査報告

事務局からの報告により原案どおり承認・可決されました。

（3）平成26年度事業計画及び予算

事務局から原案が提出され承認・可決されました。事業の主な項目は次のとおり。

- ・地域セミナーの開催
- ・研修会・講習会の実施
- ・講演会等の共催・後援
- ・静岡県博物館協会会報（No.73,74）の発行
- ・静岡県博物館協会研究紀要（第38号）の刊行
- ・静岡県博物館協会ホームページの保守・運営
- ・東海地区博物館連絡協議会への参加
- ・静岡県文化財等救済ネットワークへの参加
- ・防災事業の実施

（4）平成26年度地域セミナーについて

採択事業について事務局から原案が提出され、原案どおり承認されました。

（5）平成26年度退会館園について

「城ヶ崎文化資料館」の退会が原案どおり承認されました。

（4）平成26年度新規加盟館について

「ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課」の入会が原案どおり承認されました。

（5）その他

ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課より、ふじのくに地球環境史ミュージアムの基本構想について説明いただきました。また、県文化政策課より、静岡県の文化政策について説明いただきました。

4. 閉 会

（事務局・静岡県立美術館 阿形高紘）

東海地区博物館連絡協議会

愛知県、山梨県、神奈川県、岐阜県、静岡県の各県博物館協会で組織する東海地区博物館連絡協議会の理事会・総会が、本年度の当番県である山梨県の山梨県立博物館において、7月30日（水）に開催されました。

理事会（11：30～12：15）は、日本博物館協会1名、協議会の理事7名、監事1名、事務局3名の計12名で開催され、総会（13：30～14：45）は、43名の会員の参加で開催されました。それぞれ次の議題について審議しました。

1. 平成26年度理事及び監事の選任について
2. 平成25年度事業報告及び決算報告について
3. 平成26年度事業計画及び予算案について
4. 平成27年度開催県について
5. その他

日本博物館協会の主要事業について（日本博物館協会）

1については、26、27年度の任期で理事及び監事が選任されました。4の来年度開催県については、持ち回り順により神奈川県と決定されました。5については、日本博物館協会の主要事業や今後の活動内容の説明いただきました。

総会ののち、山梨県立博物館の常設・企画展を観覧させていただきました。また、東京女子大学准教授高橋修氏に、「小学生向け古文書解読講座 開発と実践」についてご講演いただきました。

（事務局・静岡県立美術館 阿形高紘）

静岡県に県立博物館が誕生します！

ふじのくに地球環境史ミュージアムのご紹介

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、人と自然の共生を目指し、人と地球上の生態環境との関わりを歴史的に調査研究することで、過去から現在を見通し、地域の未来のあり方に示唆を与える全国初の博物館です。

静岡南高校校舎を改修してできた当館は、教室を展示室や収蔵庫スペースとして活用。その他にも駿河湾を見渡すコミュニケーションホール（元職員室）や、研修・シンポジウムの場として活用できる講堂なども用意しています。また、実験室や視聴覚室はあえて改修せず、学校特有の雰囲気をなるべく残すことで、来館者に懐かしさを感じてもらえる空間作りを行いました。

館内展示では、「考える展示」をキーワードとし、静岡県の多様な自然環境から未来のよりよい地球環境のための先端科学まで、幅広いジャンルの展示を行い、来館者の思考を誘発できる展示手法やデザインを計画しています。さらに、資料の収集保管や調査研究の様子を公開したり、学芸員が展示についてレクチャーするなどの来館者と博物館職員が常に交流する場を設けます。

館外活動では、要望に応じて資料の貸し出しをするだけでなく、特別展などの展示備品を県内各地の公共施設等に再展示したり、各市町に出向いて体験講座や研修会など行うことで、県民にとってより身近である博物館を目指していきます。

教育機関との連携も積極的に行います。博物館を生かした学校支援講座や教育者向けの研修会を開催したり、公共施設の空き教室に展示品を並べて校内に博物館を作るなど、次世代を担う子どもたちへの教育普及活動も充実させる予定です。

開館は平成27年度末を予定していますが、館外活動は平成27年4月より開始する予定です。来年度の活動スケジュールを検討する上で、連携等のご要望がありましたらぜひお声掛けください。



学校の雰囲気を残した講座室



生徒昇降口を改修した展示ホール

【お問合せ】

ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課

電話：054-221-2838

E-mail：museum-seibi@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページ：http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-160/museum.html

Facebook はじめました：https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum

平成26年度 防災事業に係るアンケート速報

今年度の総会で、加盟館園の皆様にご了承を頂き、事務局として防災事業を少しずつ進めております。その一貫として、去る6月～7月13日(月)にかけて、加盟館園の皆様にはアンケートをお願いしましたので、その速報をここにお伝えします。全39者からご回答を頂戴しました。

大規模な天災(地震、台風、洪水、その他)が生じた場合に、貴館園では、津波や土砂崩れ、建物の倒壊等の被害が予想されますか？
はい26 いいえ12 どちらともいえない1

台帳や目録等は、貴館園で管理している資料を網羅していますか？
はい27 いいえ12

大規模な天災(地震、台風、洪水、その他)が生じた場合、水損した資料を凍らせて一時保管出来るような、大型の冷凍施設が、貴館園の建物や周囲にはありますか？
はい1 いいえ38

大規模な天災(地震、台風、洪水、その他)に備えた資材の備蓄を行なっていますか？
はい8 いいえ31

大規模な天災(地震、台風、洪水、その他)に備えた防災訓練を実施したことがありますか？
はい19 いいえ20

大規模な天災(地震、台風、洪水、その他)が生じると、自館園の資料を避難させる、あるいは被災した他の館園や一般の所蔵者からの依頼で、被災した資料等を一時保管する必要があるかもしれません。そのような時、貴館園の建物や敷地内、または近隣に、資料の緊急避難場所になり得る場所はあるでしょうか？
はい8 いいえ29 どちらともいえない1 無回答1

大規模な天災(地震、台風、洪水、その他)に備えた、非常時の連携についての協定や取り決め等を、他館と締結していますか？あるいは計画中ですか？
はい2 いいえ36 無回答1

防災訓練の手法に、DIG(Disaster Image Game)と呼ばれる図上訓練があります。ご存じですか？
はい17 いいえ19 無回答3

上記の他、頂戴した内訳のご説明やご意見等は、別途ご報告いたします。

(事務局・静岡県立美術館 新田建史)

研究紀要(No.38)の原稿を募集します

1. 投稿を受け付ける原稿

(1) 内容規定

加盟館園職員が従事している職務(展示、調査研究、保存、教育普及、その他)に関する論文、報告、事例紹介、収蔵品紹介等。

(2) 執筆者規定

加盟館園職員一人もしくは複数人の執筆によるものとします。複数人による場合、全執筆者の1/3が加盟館園職員であることを条件とします。

2. 申し込み締切日・日程

申込締切 平成26年11月30日(日)

入稿締切 平成27年1月31日(土)

3. 連絡先・担当

(事務局・静岡県立美術館 浦澤倫太郎)